

# 四方山話



この「四方山話」では、感じたことや思ったことなどを中心に書いていこうと思います。「気まぐれコーナー」になりますので、そのような視点で読み流していただければ幸いです。なお「四方山話」は、次回よりブログでの掲載になります。また、不定期での発行になります。

懐かしい風景 茂泉 和浩

インドネシアに来て約一か月経ちました。驚いたことはたくさんありますが、その中でも一番は「マンパワー」です。オートバイや車を巧みに操り、職場に向かう人々。トラックの荷台に大勢乗りながら移動している人。朝早いのに一仕事が終わって道端で休んでいる人。道路を清掃している人……。

この国が発展を続ける原動力が、この「マンパワー」であることを感じるのと同時にインドネシアの街の風景が、私が小さい頃（昭和四十年頃）の街、高度成長期の街と重なって見えます。

私は、江戸時代末期から続く豊職人の子として生まれ、家族七人と、住み込みで働く四人の職人とともに暮らしていました。朝食は早い者勝ちで、取り遅れたらおかずがありません。どんぶりに納豆、大根おろし、そして大量の醤油をかけて食べるのです。職人はご飯をたくさん食べるので、おかずにお金がかからないように、母が工夫し

たのだと思います。今思えば塩分の取り過ぎですが、当時はとにかく食べるのが最優先でした。

夕食時の茶の間は、仕事が終わった職人の汗と薫の匂い、そして皆の話し声で埋めつくされていました。

夕食は、鍋物やあら汁、漬物、ご飯といったメニューでしたが、家族や職人と話をしたり、話を聞いたりしながら食べる食事が私は好きでした。大人たちは、「工場を増やしたい」「独立したい」「大きなトラックがもつと必要。」などといった思いや夢を語り、子供たちは会話を聞きながら、社会勉強をし、夢を膨らませました。

発展していくインドネシアの家庭で、子供たちはどんな会話をし、どんなことを考え、どんな夢を見ているのでしょうか。日本の子供たちと交流することができれば、双方にとって貴重な学びの場になるだろうな……。インドネシアの「マンパワー」を感じながら、そんなことを思いました。